



エコ・ファーストの約束 (更新書)

～ 環境先進企業として地球環境保全の取り組み ～

環境大臣 伊藤 信太郎 殿

令和 5年 4月 27日

日産自動車株式会社

代表執行役社長兼最高経営責任者

内田 誠

日産自動車株式会社は、環境理念である「人とクルマと自然の共生」の実現のために、事業活動やクルマの走行によって生じる環境への依存と負荷を自然が吸収可能なレベルに抑え、豊かな自然資産を次世代に引き継ぎます。

当社は「ニッサン・グリーンプログラム2030」のもと、以下の重要課題の達成を目指し、2030年度までの取り組みを進めて参ります。

気候変動

2050年までのクルマのライフサイクル全体におけるカーボンニュートラル実現を目指し、クルマの電動化や革新的なモノづくり等により、SBTイニシアチブ*と整合したCO2低減を進めます。

- 原材料採掘・製造・輸送・廃棄に至るライフサイクル全体において、台数当たりのCO2排出低減：
✓ -30% (グローバル、2018年度比)
- 省エネや再生可能エネルギー導入等を通じた、新車製造における、台数当たりのCO2排出低減：
✓ -52% (グローバル、2018年度比)
- グローバルにおける電動車の拡充等を通じた、走行時における、走行距離当たりのCO2排出低減：
✓ -50% (日本・米国・欧州・中国、2018年度比)
✓ -32.5% (グローバル、2018年度比)

*日産はScope1・2・3においてSBT認定を受けており、各ScopeのCO2排出情報を公開しています。

資源依存

資源を効率的かつ持続的に循環する仕組みと、クルマを最大限活用する仕組みを創出します。

- 資源の循環利用の促進：
✓ 新車・販売部品における サステナブルマテリアル比率 40%
- クルマの効率的な利用の促進：
✓ 新車EVへのエネルギーマネジメント機能の搭載率 100%
- 各事業所における資源循環の促進：
✓ 事業所における、資源循環と廃棄物低減を目指した1人1人のごみ分別の徹底

大気品質

クルマや工場からの排出物質低減 及び 車室内の空質維持・向上により、人の健康を守り、生態系の維持に努めます。

- 排気ガス以外も含めた、クルマからの排出物質の低減
- クルマの製造時に発生するVOC (揮発性有機化合物) 量の最小化
- 車室内VOCの維持・改善

水

地域ごとの水リスクを考慮し、生態系保全に配慮したモノづくりを進めます。

- 水使用量の低減 及び 排水水質管理を通じた、水リスクの高い工場数のゼロ化

基盤

バリューチェーン全体における、環境リスクを最小化する仕組みを整備します。

- サプライチェーンを通じた、責任調達の実現
- トレーサビリティシステムによる、バリューチェーン全体の情報管理の実現および説明責任の確保

日産自動車株式会社は、上記取り組みの進捗状況を確認し、結果について環境省への報告、ならびに定期的な公表を行って参ります。